主日礼拝「罪が完全に赦され」ルカ 7:36～50　　2026.3.1

平良善郎(安慶名バプテスト教会)

主の御名をほめたたえ賛美いたします。3 月に入りました。本日は主の晩餐式も執り行われます。パンとぶどう汁をいただきます。私たちはイエス様を信じ、イエス様の十字架の贖いによって、罪が完全に赦された者、それが私たちであります。その私たちの内に、イエス様を信じる私たちの内に聖霊なる神が住んでくださっている。住んでくださり、イエス様が永遠に私たちと共にいてくださる。そのように私たちは信じる者であります。その信仰に生きる者。いつもイエス様が共にいる。いつもイエス様が私たちを愛してくださる。その確信に生きる者、それが私たちであります。素晴らしい神の愛が永遠に注がれ続けている者、そう語っても良いかもしれません。私たちが聖書の御言葉を読み味わう時、イエス様によって、「罪が完全に赦され」、愛に満たされ、そして、喜びに溢れたそういう人の姿が聖書の中には、聖書の多くの登場人物の中には、そのような罪が完全に赦され、神様に愛されて、喜びに溢れた、そういう人の姿が語られております。

本日の聖書の個所にも罪赦され、愛され、感謝の涙が止まらない、そういう女性の姿が語られています。兄弟姉妹の皆様は、感謝で、そして、大きな愛で愛されて、涙が止まらない、そういう経験をしたことがあるでしょうか。そういう女性の姿が、今日の聖書の個所には記されているのであります。私は、私にイエス様を紹介し、心から私を愛し祈ってくれるアメリカ在住のジェリー・ギャンダーさんに数年に一度会う機会がありますが、ジェリーさんの顔を見ると、私は涙が止まらないのであります。この素晴らしいイエス様を紹介し、いつも愛をそそいでくれる、そのジェリーさんに再会すると涙が出てしまうのです。昨年も沖縄に来られた時、水曜日の昼の聖書研究会でジェリーさんにお話をしてもらいましたが、私は涙をこらえるのに実は必死でありました。もう、ちょっと気を抜くとですね、わーっと涙が出てくる、そういう状態でありました。今日の聖書の個所にも、涙を流し続ける女性の姿が語られているのであります。

それは、あるシモンというファリサイ派の人の家での出来事でありました。シモンがイエス様と共に食事をしたいと願ったのであります。そして、イエス様を自分の家に招いたのであります。なぜ、シモンは、ファリサイ派のシモンであります。ここで考えるのです。なぜシモンはイエス様を家に招いたのでありましょうか？イエス様から深い聖書の真理を聴きたかったのでありましょうか？それとも、果たしてこのイエス様はどんな人であろうか、「預言者」であろうかと、そのイエス様の本当の姿を、食事の席の会話を通して見極めたい、そう思ったのでありましょうか。自分はファリサイ派として律法を学んだ者として、イエス様の本当の正体を見極めることができる、そういう思いがあったと考えられます。

シモンはイエス様を招きました。そして、いよいよシモンの家で食事が始まるのです。その当時の食事のスタイルというのは、今、私たちが食事をしているように、腰掛に座って、テーブルの上で食事をする。そういうことではなくて、体を横にして、左ひじをついて、右手で料理をいただく。そういうスタイルでありました。その光景をどうぞ想像してみてください。今、日本でそういう食事をするならば、お行儀が悪いと言われるかもしれません。でも、その当時はその様なスタイルで食事をしていたのであります。

その食事の最中に、この町の女性がやって来ました。イエス様がシモンの家に来られたと聞いて、この女

性はやって来たのであります。この女性はそのことを聞いた時に、いてもたってもいられなくなり、シモンの家に向かったのであります。それも香油の入った石膏の壺を持って。この香油、その石膏の壺は、それぞれの家に保管している大切な財産でありました。何かその家にあった時、この香油をお金に換え、その必要を満たす、という大切な財産、大切な香油でありました。何かあった時には、この香油をお金に変えたのであります。その大切な香油の壺を持って来て、この女性はやって来たのであります。多分急いだと思います。イエス様が居られる。そのことを聞いて急いでやって来たと思います。駆け足でやって来たかもしれません。この香油の入った壺を持って、やって来たのであります。急いだのであります。息遣いも荒くなっていたかもしれません。そして、やっとの思いでこの女性はシモンの家に到着いたしました。

そして、その家に入り、イエス様が座っておられる後ろからイエス様の足元にこの女性は近寄り、身を屈めました。ここはこの女性の家ではありません。他人の家であります。でも、この女性は、自分の家、他人の家、そんなことは関係なく、足元に、イエス様の足元にひれ伏したのであります。彼女は涙を流しておりました。その涙で両足を濡らし、髪の毛でぬぐい、イエス様の足に香油を塗ったのであります。この女性の精一杯の心からの感謝を表わしたのであります。そして、髪の毛でぬぐい、イエス様を本当に心から愛するという、そういう姿を現したのであります。どれほど大きな感謝をこの女性はイエス様に表わしたかったのです。あぁ、この女性は本当にイエス様に感謝を表したかった。感謝したかった。その女性の思いが私たちにも伝わってくるようであります。

実は、この女性はシモンの家でイエス様とお会いする前にたぶん、すでにイエス様とどこかで出会っていたと考えられます。しかし、その出来事は、その出会いの記事は聖書には記されておりません。この女性についてはっきりしていること、それは、この女性は町の人々から、罪深い女性と言われていた、ということであります。皆が知っていたのであります。罪深い女性と。だからこの家に着た時に、なぜ、あなたが来るのか？と驚い人も知るかもしれません。なんでこんなところに来たのかと、追い帰した人もいたかもしれません。その女性がですね、以前、イエス様にどこかで会った。その時、イエス様から大きな愛と赦しを与えられたと考えられるのです。イエス様がこの女性をありのままで、そのままで愛し、赦し、そのままでイエス様は受け入れてくださった。その出会いが以前あったからこそ、イエス様に対する心からの感謝を表わすために、この女性は駆けつけて来たと、私たちは想像することができるのであります。

先ほども語りましたが、この女性は町の人々から、罪深い女性と、思われていました。この女性が、律法に厳格なファリサイ派の人の家に向かい、その家に入るのです。律法に厳格なファリサイ派の人の家でありますから、何を言われるか分からない。ふとそういう風に思ったかもしれません。罪を指摘され、追い出されるかもれ知れない。しかし、彼女は自分が非難や批判の声を浴びせられるかもしれない、という状況も忘れてしまって、イエス様に会いたいという思いが溢れて、シモンの家を訪れたのであります。

私は 1986 年に先ほどお話ししました、ジェリー・ギャンダーさんに出会いイエス様を紹介してもらいました。その後、ジェリーさんはアメリカに帰りました。私はバプテスト教会に導かれ、信仰を告白し、バプテスマを受け、救われたのであります。その一年後であります。キャンパスクルセードという大学伝道のグループが第一回のアメリカ伝道ツアーを企画しました。その知らせを聞いた時、私はジェリーさんに会いたい、そういう思いで、その思いが溢れて、英語も話せない、旅費もない、家族は反対している。無い無いづくしでありましたが、どうしても会いたいという思いの中で話を進めました。神は不思議な方法を通して導かれ、お金も借りることができ、アメリカへと約一ヵ月間伝道旅行をするこ

とができたのであります。本当に広いアメリカでありますが、アメリカに行ったらジェリーさんに会えると、本当に単純で、馬鹿なそういう考えをして、アメリカに行ったのであります。実はジェリーさんは、テキサスに居りました。私たちがアメリカに最初に着いた時、そこはロサンジェルスであります。かなり離れております。その前に実は、ジェリーさんに「ロサンジェルスに日本の学生たちが来るから」という話を聞いて、そのアメリカの現地のスタッフがですね、「君も少し手伝ってもらえないか」と言われていたようであります。そして、わざわざテキサスからロサンジェルスまで来ていたのであります。そして、なんとロサンジェルスで私はジェリーさんと再会することができたのであります。あの広いアメリカで神様は祈りに応えてくださって、再会させてくださった。そして、本当に涙を流した。そういうことがありました。神様に心から感謝しました。

この女性もそういう思いで、いや、それ以上にイエス様に会いたいという思いを持って、シモンの家に向かい、そして、やっとの思いで、シモンの家に着いたのであります。彼女は家の中に入り、そして、イエス様の足元に寄り添い、泣きながらその足を涙でぬらし、自分の髪の毛でぬぐい、イエス様の足に接吻をしました。そして、大切に持ってきた、香油をイエス様の足に塗ったのであります。足が濡れるぐらいでありますから、本当に涙を大量に流していた。涙が止まらなかったのかもしれません。香油をイエス様の足に塗ったのであります。香油の香りが部屋いっぱいに広がったと思います。この女性の行動は、イエス様への愛と感謝が溢れて、自分が今できる一番の感謝を表わす方法と彼女は考えたのではないでしょうか。

この罪深い女性の姿を見ていた、ファリサイ派のシモンは(39)「この人がもし預言者なら、自分に触れている女がだれで、どんな人か分かるはずだ。罪深い女なのに」とシモンは心の中で思ったのであります。このシモンはファリサイ派として自分は正しい歩みをしている。そのようにいつも心がけている。そう自分の正しさに誇りを持って歩んでいた人であります。それゆえ、自分の尺度で、いつも人を裁いていたのではないかという風に思われます。イエス様はそのシモンの思いを見抜いて、次のようなたとえをシモンに語られました。(41-42)「ある金貸しから、二人の人が金を借りていた。一人は五百デナリオン、もう一人は五十デナリオンである。二人には返す金がなかったので、金貸しは両方の借金を帳消しにしてやった。二人のうち、どちらが多くその金貸しを愛するだろうか。」」とイエス様はシモンに語られました。その問いに対して、シモンは(43)「帳消しにしてもらった額の多い方だと思います」と正しい答えをイエス様に語ることができました。イエス様は「その通りだ」とおっしゃったのであります。

では、このたとえを通してイエス様はシモンに何を語ろうとしているのでありましょうか？シモンは正しい答えを語ることができましたが、そのたとえの意味を実は理解できなかったと考えられます。そして、イエス様はシモンにもわかるように次のように語られます。(47)「だから、言っておく。この人が多くの罪を赦されたことは、わたしに示した愛の大きさで分かる。赦されることの少ない者は、愛することも少ない。」とイエス様は語られました。つまり、イエス様のたとえ話は、実は、この女性とシモンの姿を語っているのであります。この女性は自分の罪を知っていました。自分の醜さ、汚れ、弱さ、足りなさ、自分が罪人であると知って、そして、その罪を赦してくださるイエス様のもとに来たのであります。イエス様に出会ったのであります。そして、その赦された喜びが溢れて、イエス様に感謝を表わさなければ、自分の気持ちが落ち着かない、そういう思いで、イエス様のもとに来たのであります。しかし、それとは違って、シモンは、自分の罪を知らなかったのです。自分が罪人であるということを悟らなかったのであります。だから、罪を赦し、神の愛を与えるイエス様を、せ

っかく食事にお招きしても、自分の心をシモンは開かなかったのであります。

私たちは、正しく日々を歩もうと励んでいます。頑張って正しく日々を歩みたい。そう思って日々を歩んでいるのかなと思います。もしかしたら、ある人は自分はそれほど悪くない者である、といつのまにかそう思ってしまうこともあるかもしれません。しかし、その姿というのは、自分はそれほど悪くないというその姿というのは、イエス様の御前で歩む姿ではない、と聖書は語るのです。イエス様の前では、すべての人が罪深い者であり、赦しを必要とする存在であります。シモンはイエス様を招きました。その食卓のイエス様の前におりましたが、自分の存在、自分が罪ある存在であり、心から悔い改めてイエス様を求めなければならない存在である、ということを知らなかったのです、悟らなかったのであります。そうです、自分の罪を知る者だけが、イエス様による赦しの喜びを知る者とされるのであります。イエス様の赦しを体験した者だけが、イエス様を愛することができるのであります。私たちはイエス様を愛していると思います。なぜならば、私たちのすべての罪がイエス様に赦されたからであります。イエス様を信じる者を、神様は私たちのその罪をすべて赦してくださって、愛してくださるのです。その赦された者として、私たちはイエス様を心から愛していると思います。

この女性はシモンの家で実は何も語っていません。言葉を発していません。イエス様に対する無言の感謝が溢れているのであります。その姿を見て、イエス様はシモンに次のように語りました。(44-46)「この人を見ないか。わたしがあなたの家に入ったとき、あなたは足を洗う水もくれなかったが、この人は涙でわたしの足をぬらし、髪の毛でぬぐってくれた。7:45 あなたはわたしに接吻の挨拶もしなかったが、この人はわたしが入って来てから、わたしの足に接吻してやまなかった。7:46 あなたは頭にオリーブ油を塗ってくれなかったが、この人は足に香油を塗ってくれた」と、この女性の姿がイエス様への愛の応答であり、信仰告白であるとイエス様は語っているのであります。この女性は知っておりました。このお方だけが、このイエス様だけが自分の罪を赦し、真の愛で愛してくださり、自分を新しくしてくださるお方であると。私たちもイエス様によって罪赦された者であります。私たちが立派な行いをしたから、赦されたのではありません。そうではなく、まずイエス様が赦してくださった。愛してくださった。そのイエス様を信じることによって私たちは新しく生きる者へと変えられるのであります。

先週でありますが、私は沖縄説教セミナーに参加してきました。今日の説教を作成したのであります。そのセミナーの場所は北山荘でありました。北山荘は今、とても整備され、静かで、とても落ち着ける場所であります。そこで説教の学びをすることができました。大きな木が生えていて、影をつくり、参加する人々に憩いを与えていました。その大きな木は、約 60 年前に宣教師のボーリンジャー先生、渡真利文三先生、今、100 歳になっていますね。渡真利文三先生。国吉守先生、そして、私たちの前任の牧師であります宮城安則先生が植えた木が、大きな大木となっているのであります。この場所で多くの中高生や青年たちが、信仰を与えられ、成長し、多くの献身者の決心がこのキャンプ場でなされていきました。その恵みを思い起こしつつ、私はセミナーを過ごしていました。多くの救われる魂が誕生し、イエス様に出会って、完全に罪を赦され、新しくされた兄弟姉妹の思い出がこの場所にある。そう思わされたのであります。

この女性もイエス様によってまったく新しくされた一人でありました。この女性はイエス様からありのままで、そのままで愛された者、そして、受け入れられた者でありました。そして、完全に罪を赦された者、それがこの女性でありました。イエス様は言うのです、(47)「だから、言っておく。この人が多くの罪を赦されたことは、わたしに示した愛の大きさで分かる。赦されることの少ない者は、愛する

ことも少ない」と語られました。罪深いと言われ、自分でも罪に悩んでいたこの女性の罪を完全に、完ぺきにイエス様は赦されたのであります。その喜びが、感謝が香油を足に塗る、という姿に現れているのであります。そして、イエス様はハッキリと宣言します。(48)「あなたの罪は赦された」と。私たちにも語られています。あなたの罪は完全に赦されていますよと。

私たちもこの御言葉をいつも心に響かせて歩むことが出来る。そういう者であります。私たちの罪は完全に赦された。永遠に完全に赦された者、永遠に神様が、私たちを愛してくださって、その愛が決して失われない、そういう者。それがイエス様を信じる私たちの姿であります。永遠に罪が赦され、永遠に愛されている者、そのようなメッセージをいつも心に響かせながら、私たちは歩むのです。イエス様はこの女性に最後に言われました。「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい」と語られました。信仰とは、イエス様の赦しの御言葉を素直に受け入れることであります。愛とは、イエス様の赦しに応えて生きることであります。罪が完全に赦された者として、私たちは、イエス様を愛し、互いに愛し合いつつ今週も、また、今月も共に歩んでいきましょう。

お祈りいたします。

天の父なる神様、御名をほめたたえ感謝いたします。神様、私たちは、イエス様を愛しております。完全に完ぺきにイエス様は私たちを赦してくださって、そして、永遠に私たちを愛してくださって、その愛に生きることが出来ること、心から感謝いたします。神様、私たちは弱い者であります。しかし、あなたが愛してくださったということを決して忘れません。決してあなたの愛からはなれない。いや、神ご自身が私たちを離さない。そういう愛の中にいることをありがとうございます。どうぞ神さま、今週一週間、今月ひと月、あなたの愛に満たされて、歩むことが出来ますように。十字架の深い深い愛、恵み、そのことを本当に心に刻みつつ、歩むことが出来ますようにあなたが導いてください。心か神様に感謝し、期待し、イエス様の御名によって祈ります。アーメン。